

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

送信先: report@r-ict-advisor.jp

派遣決定番号 040K

報告日 令和5年8月24日

報告回次 3日目

令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	横手市	代表者名	(課長) 高橋美貴子		
担当者部署	まちづくり推進部	連絡先電話番号	0182-23-6767		
担当者役職	主査	担当者氏名	築瀬 亮朋	連絡先E-mail	*****
住所	O138601 秋田県横手市条里一丁目1番64号				

1-2. 推薦団体 (「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	岡本 真
評価	大変よい
上記評価の理由 (どのようなところがよかったか等詳細に)	<ul style="list-style-type: none">本事業は、上位計画(横手市歴史的風致維持向上計画)にもとづく個別事業であるが、「地域情報化」とは関連の薄そうな分野にも関わらず計画の趣旨を的確に把握されていた。類似事例(高知県佐川町、福島県須賀川市)を切り口に、ストンと腑に落ちるお話をされており、今後の取り組みにあたって大変勇気づけられた。依頼者側との対話を重視されるのが印象的だった。現状の背後にあるより重要な要素を「言語化」させ、課題解決への筋道に気づかせるようなアドバイザーだった。メンターとして関わっていただいている山崎博樹氏との呼吸もピッタリ。
アドバイザーへの要望事項	

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日 (申請書より)	支援内容 (申請書より)	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
	令和5年8月30日	講演(実地)	有	令和5年5月16日	634
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)
	令和5年8月19日	講演(実地)	10時00分	16時00分	60
				活動時間(分)	300
3-2. 派遣場所	会場名	横手市交流センターY2ぶらざ	最寄駅	JR横手駅	
	所在地	秋田県横手市駅前町1番21号	最寄駅からの交通手段	徒歩	

4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可	https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/
------	---------------------------	---

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	一般、職員	22人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none">本事業は「横手市歴史的風致維持向上計画」にもとづき、歴史文化資産の活用により地域ブランディングの推進やまちづくりの担い手となる「横手城下ファン」を育成することを目的としている。まちを知り、まちを記録し、まちの魅力を発信する手法として、デジタル化やオープンデータ、パブリックドメインの視点が欠かせないと考えているが、これらの理解が浸透していない。年齢層/属性の異なるメンバー間でのイメージ共有や、具体的な取り組みがイメージできていない。	
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none">単にまちの案内人や観光ガイドを育成するということではなく、住民自身が楽しみながら「まち」のことを発信し、そのことが結果として観光振興や地域コミュニティの活性化につながっている。→SNSやウィキペディアなど趣味としてのまちの情報発信の活発化→デジタルアーカイブの活用による地域振興/観光振興への波及・受講者による「横手城下語り部」の結成!	
アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none">・レクチャー1 40分(岡本真氏:横手を語る切り口とデータを探し活かすには-高知県佐川町、福島県須賀川市での実践から)・レクチャー2 30分(山崎博樹氏:デジタルデータを活用した地域資源の発掘・発信)・セッション&質疑応答 30分(岡本、山崎)・アンカンファレンス 50分、テーブルトーク 45分×2ラウンド、総括 25分	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none">・地域にある「どうということのない素材」や「ものがたり」の掘り起こし、発信手段として、デジタルアーカイブやウィキペディア、あるいは既存SNSの利用は有効な手段である。横手城下を語る切り口を掘り起こすトレーニングを通じて、「横手城下語り部」のイメージを共有することができた。・地域の多様な「キャラクター」や「ものがたり」を育んでいくことが、訪れてみたいと思わせる魅	

	・地域の魅力は「ファン」や「ものたり」を育むという視点から、魅力のたいてい心づきや魅力につながるという観点から、エリアを語る切り口やデジタルツールを使って素材を調べることを体験する場、受講者のモチベーションや気づきを重視する場とすることができた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	④人材育成のカリキュラムやツールを策定できた ・公開講座の実施（「横手城下語りべ講座」登録受講者14、市外含むオープン参加4、職員4）
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	<ul style="list-style-type: none"> メンバー全員にITスキルが必要ではなく、①素材を見つける→②調べる（リファレンス）→③言語化する→④デジタル化する→⑤発信する、など各工程で役割分担した方が多世代が活躍しやすいという指摘から、年齢層/属性の異なるメンバー間での分業や関係性の構築が重要となる。 「ものがたり」を共有するには丁度よい規模がある。当市では行政単位が丁度よい規模よりも巨大なため、行政主導に陥らない丁度よい関わりのカタチを意識していく必要がある。 	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 アンケート集計は別途添付	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する
事業の最終的な目指す姿	・横手城下エリアの魅力や、新たな視点で発信することのできる「横手城下ファン」が育成され、まちあるきやガイドの担い手・ICTを用いたまちの魅力発信のためのサークルが結成されている状態。	

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

